



# ACADE見IC No.168

## マンガ・アニメの研究者

非常勤講師

### 山下 雅之 先生

日本で現在知名度を上げているオタク文化——そんなオタク文化の代表格であるマンガやアニメについて、フランスと日本の作品を比較して研究されている先生にお話を伺った。(MI-KO)

### 研究のきっかけ

最初のきっかけは、1985年ごろパリに留学していたときに友達になったフランス人が、カルチエ・ラタン（パリの学生街）にあったマンガ屋に連れて行ってくれたことだと思います。残念ながら当時は自分の勉強に手一杯で、そこまで興味は持てなかったんです。でも仕事で何度か行くうちに、「こんなにもいろいろなマンガがあるのか」って思うようになって、だんだんと興味がわいてきたって感じですね。

そのときに知った『タンタン』とか『スピルー』とかはまだオーソドックスだと思うんですけど、友人が教えてくれた『ピロット』とかはフランスのアンガラ文化と結びついてたこともあって、日本でもそこまで有名じゃないんですよね。やはり、人から教えてもらって興味を持つことは多いですね。たとえば日本の最近の作品、『新世紀エヴァンゲリオン』とか『涼宮ハルヒの憂鬱』とかも自分はあまり知らなかったんです。でも日本で「オタク」っていう存在が有名になってくるにつれて、日本のマンガを学生から教え

てもらえるようになって。そのおかげで日本のマンガとフランスのマンガを比べてみるのもいいかなって思うようになりました。

### マンガの研究

日本とフランスのマンガを比較するために、日本ではあまり知られていない、フランスのマンガも手広く研究しています。

フランスのマンガの特長はカラーで細部まで描きこまれていることと、ストーリーが緻密で展開がしっかりしていることですね。それに対して日本のマンガは数十巻も続くから、ストーリーの組み立てよりどうやって長く読んでもらうかというのを重視してる感じがします。その特長は、動きがあるとか、表情が豊かであるとか。特に最近の作品はキャラが面白く描かれているということもあって、そういうところに惹かれますね。

### プロフィール

岐阜県出身。京都大学文学部哲学科社会学専攻卒業、京都大学大学院文学研究科博士課程（社会学）修了。パリ＝ソルボンヌ大学（パリIV）博士課程修了。京都大学文学部助手などを経て、現在、近畿大学芸芸学部教授（社会学、フランス社会論ほか）。マンガの他に、社会学の観点からサッカーを研究している。主な著書は『フランスのマンガ』（論創社）など。

はみだし  
すてーじ

来月号もどうか発行してください。お願いします（泣）  
⇒発行したいのはやまやまなんです、発行したところで誰が読むんですかね？

（理・2 ムラサキ）  
（だって8月は夏休みでしょ？；編）

### 研究の醍醐味

フランスのマンガと日本のマンガ、全然違う場所で全然違う時代に生まれているものだけど、これとこれは結びつきがあるんじゃないか、とか、逆に同じルーツから出ていて同じように見えるけど、これとこれは違うんじゃないか、とか、「関連性」と「違い」っていうのをより広く知ることによってだんだん見えてくるっていうのがいいですね。

それと、日本の文化だからこそできる



▲フランスで発行されているマンガの一部。手前は日本のマンガのフランス語版

んですけど、話題になったものを使おうと思っています。アニメは決して世間で騒がれてるほど怪しげなものじゃなくて、社会である程度認められてきているってことを知ってほしいっていう気持ちがありますからね。

こういうテーマを選んだからといってまわりの批判は特にありませんでした。誰か言いそうかなとは思いましたが、やっぱりある程度社会に浸透しているから、もしくは京大だからっていうのがあるかもしれませんね（笑）。



▲先生の研究室の本棚。専門書に混じって世界のマンガが所狭しと詰め込まれている

はみだし  
すてーじ

ラテン語を学んだが、会話ができない。  
⇒ラテン語はそもそも話者がいませんからね。仕方のないことです。

こととか、逆にフランスならではの表現とか、「片方にはあるけど片方にはないオリジナリティ」っていうのが見つかったりすると面白いですよ。

### 先生はオタク？

それはよく聞かれますね（笑）。最初は単なる研究としてやっているつもりだったんですけど、やってるうちに、その気があるのかなって思うようになって。そうでないと興味を持ってませんからね。

学生みんなに聞かれたとき、最初は「違う」って言ってたんですけど、マンガなどがけっこう好きっていうところから考えると、やっぱりオタクの気があるのかもしれないね（笑）。

### 先生と経験社会学Ⅱ

この授業のコンセプトは2つあって、1つは日本であまり知られていないフランスやアメリカのマンガの大まかな歴史

### 経験社会学Ⅱ

日本・フランス・アメリカのマンガを比較しながら、オタク文化の特徴について学ぶ授業。特に日本以外の国でマンガがどのように発展してきたか、どのようなパリエーションがあるのかについて、幅広い理解を得ることを目的としている。今年度は後期に開講される。

をみんなに知ってもらおうこと。もう1つはオタク文化が市民権を得つつあるから、だいたいどんなジャンルがあってどういう広がりがあるかということに、興味を持ってもらいたいという感じですね。

この授業は社会学の先生方から授業をしてほしいっていう依頼が来て開講したんです。ただその内容までは指定がなくて、社会の中で実際に出てきていることを話してくれということだったので、自分の研究でもあるマンガというテーマを選びました。

授業ではアニメを上映することもある

### 研究の将来

他の国にはない日本のマンガの特徴として、「少女マンガ」が挙げられるんですよ。そういうところから見て、逆にアメリカとかフランスで、少女向け文化があったのかっていうところを深く掘り下げていきたいなと思っています。

実はフランスでは60年代くらいに、日本でいうところの「かわいらしい物に対する文化」があったらしいので、そこから日本の少女マンガや少女文化と比較しつつ、フランスの60年代をクローズアップしていきたいですね。

### 学生に伝えたいこと

オタク文化に詳しい人もそうでない人も、外国の、特にフランスやアメリカで発達したマンガの歴史を知ってもらいたいですね。その上で、それまで自分が読んでたマンガやアニメが、ここ十数年のブームではなくて、もっといろいろ複雑



▲フランスのマンガを手に熱く語る先生。日本のマンガとは違い、ハードカバーだとのこと

なところにルーツを持っているということに気づいてほしいです。

日本人が全然知らないところで、日本のマンガやアニメを楽しみに待ってる人がいる。このことを考慮に入れてもらって、自分たちが見ているものを幅広く、奥深く見てもらいたいという思いがありますね。

——ありがとうございました。

（理・2 奪格支配）  
（そういうことになっておきましょう……；編）